

全国会議及び肉用鶏分科会に 関するアンケート調査結果

家畜改良センター兵庫牧場
業務課長 山本 力也

概要

鶏改良推進中央協議会

当協議会は、鶏の改良増殖目標において「家畜改良センター、都道府県、民間団体等が消費者ニーズも踏まえ、効率的な改良を推進するための課題解決に向けた各機関の役割分担や業務の連携調整等を行う会議」とされている。また、能力向上に資する取組みとして、「当協議会等の場で改良に関する情報や消費者ニーズ等を改良関係者に伝達するとともに、PRの方法等について継続的な意見交換に努めるものとする。」とある。

新型コロナウイルスによる影響

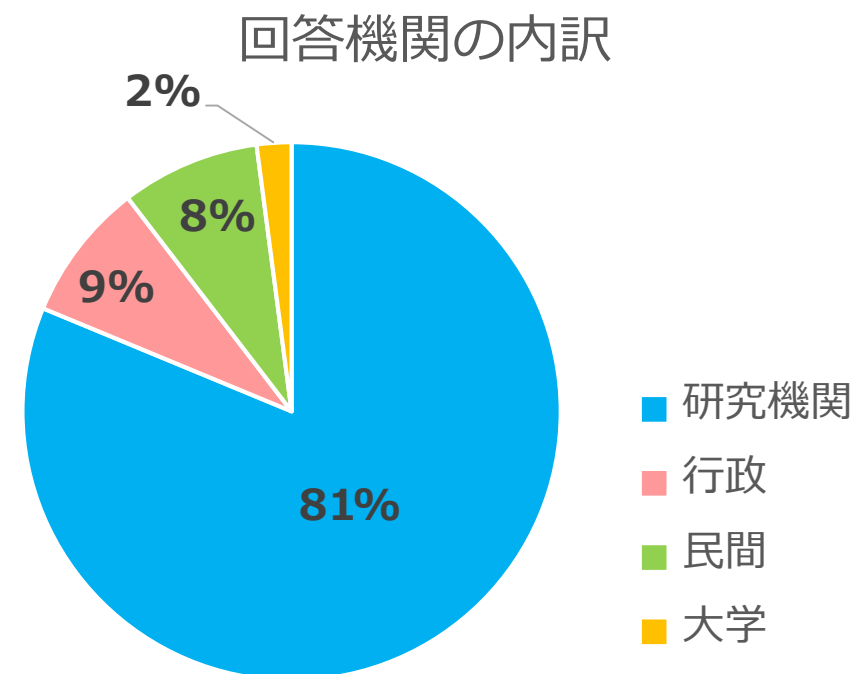
対面で実施してきた当協議会は、新型コロナウイルスの全世界的流行を受け、2021年度からオンラインにより開催してきた。開催形態が変化する中、当協議会の在り方を検討するため、協議会参加機関にアンケートを実施した。

アンケートの実施

実施期間：2023年7月14日～8月10日

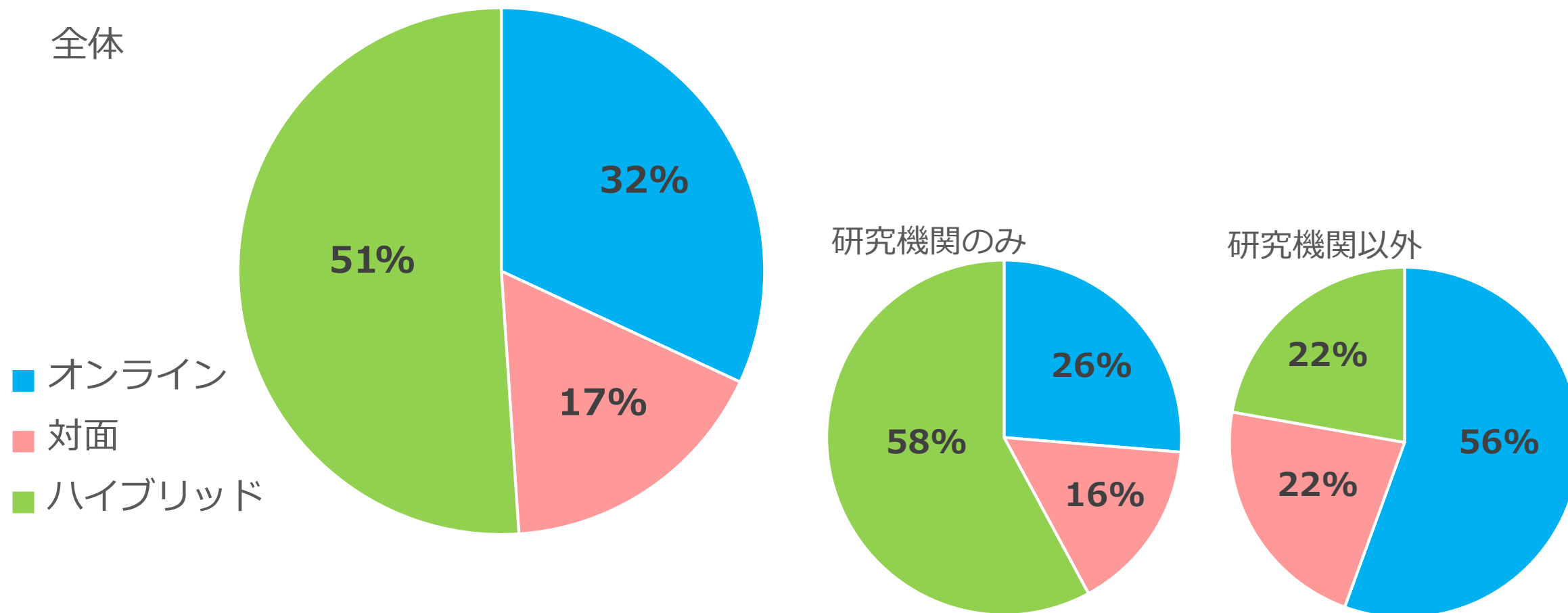
実施対象：2022年度鶏改良推進中央協議会 参加機関

	送付先	回答	回答率 (%)
研究機関	42	39	92.9
行政	32	4	12.5
民間	17	4	23.5
大学	7	1	14.3
計	98	48	49.0



アンケートの結果

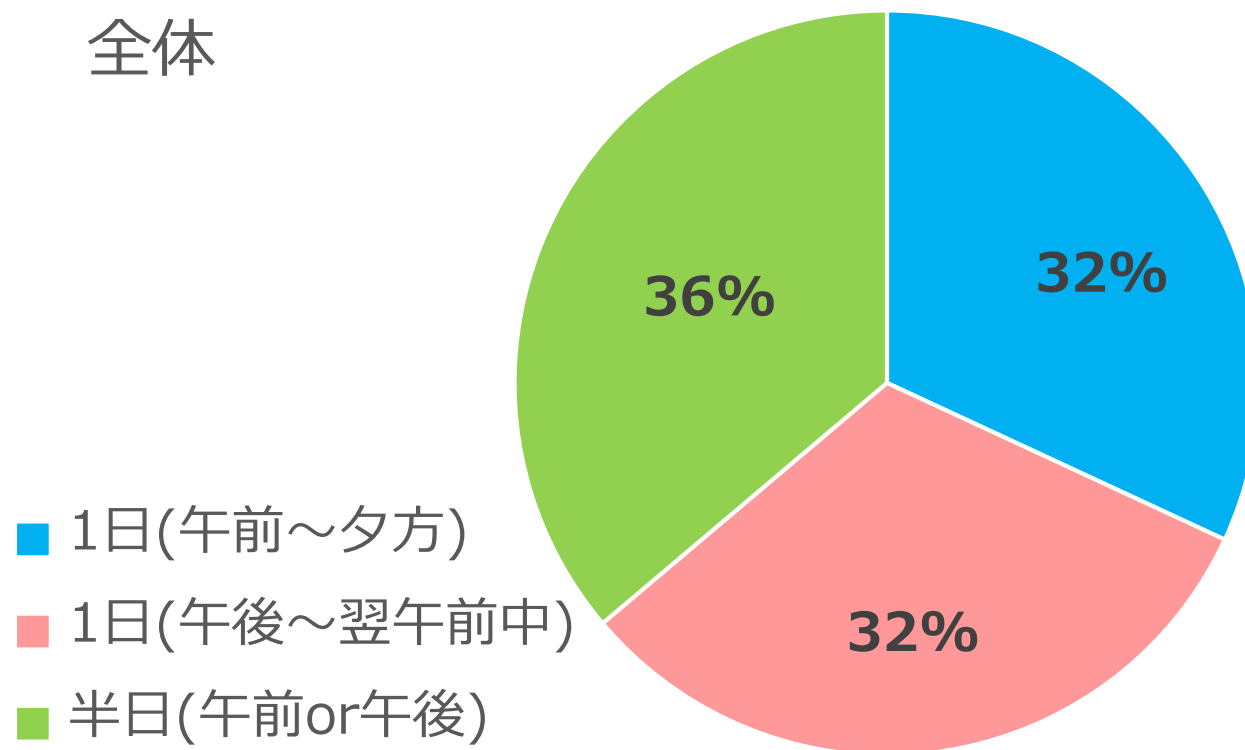
Q1. 全国会議で希望する開催方法はいずれか。



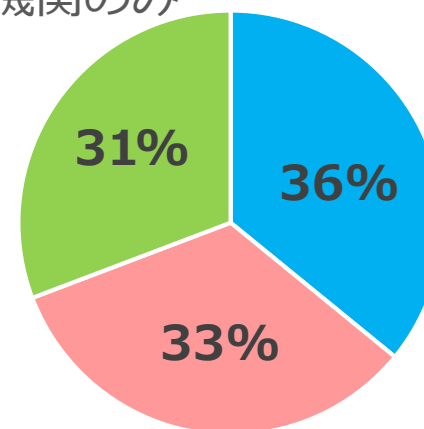
アンケートの結果

Q2. 全国会議で希望する日程はどれか。

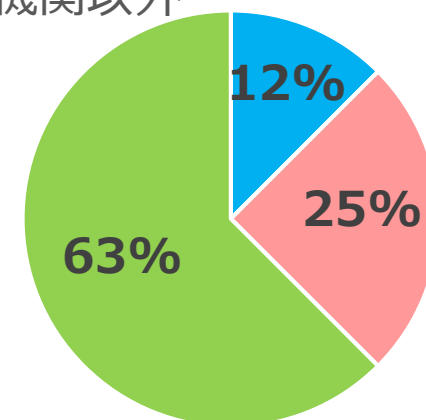
全体



研究機関のみ



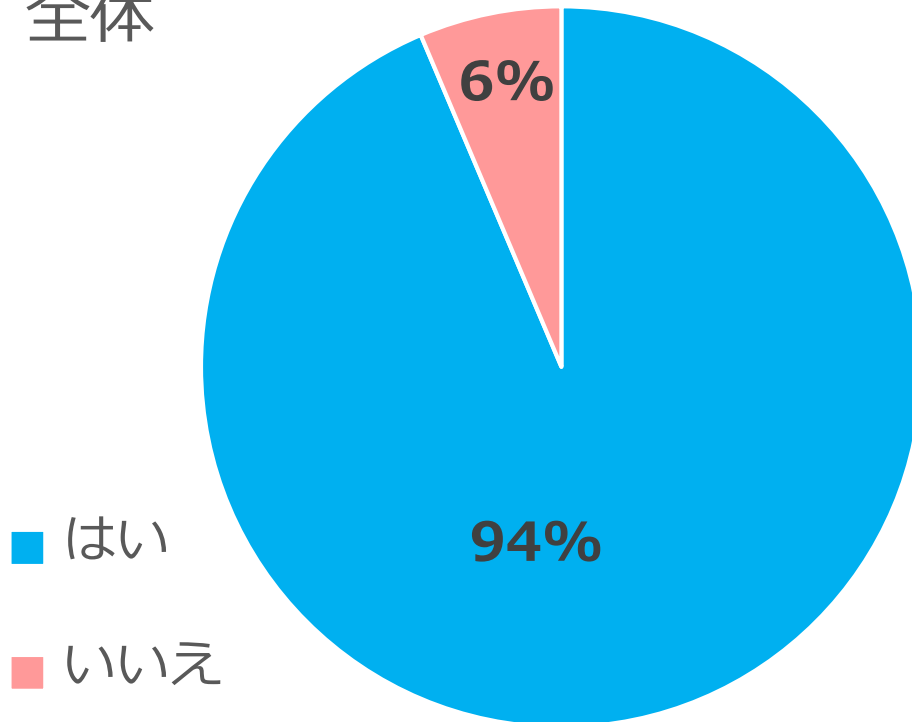
研究機関以外



アンケートの結果

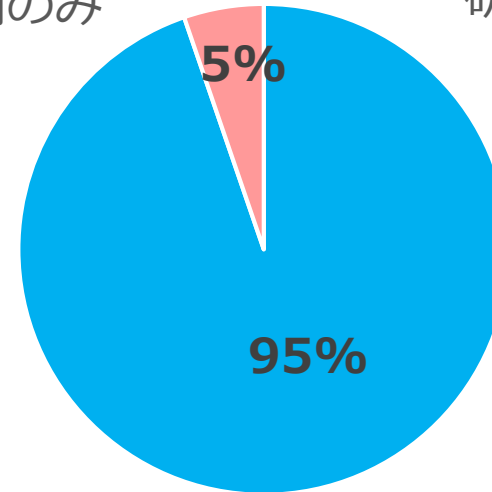
Q3. 現在の会議の構成に満足か。

全体

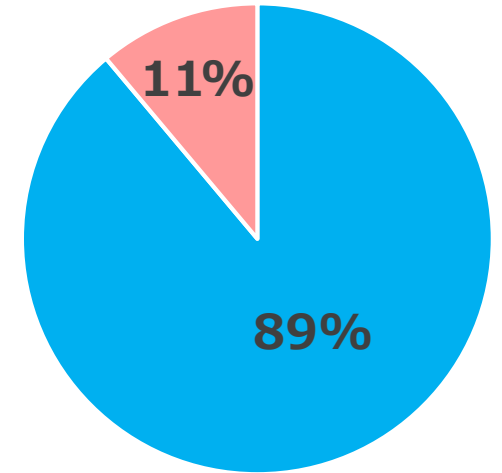


■ はい
■ いいえ

研究機関のみ



研究機関以外

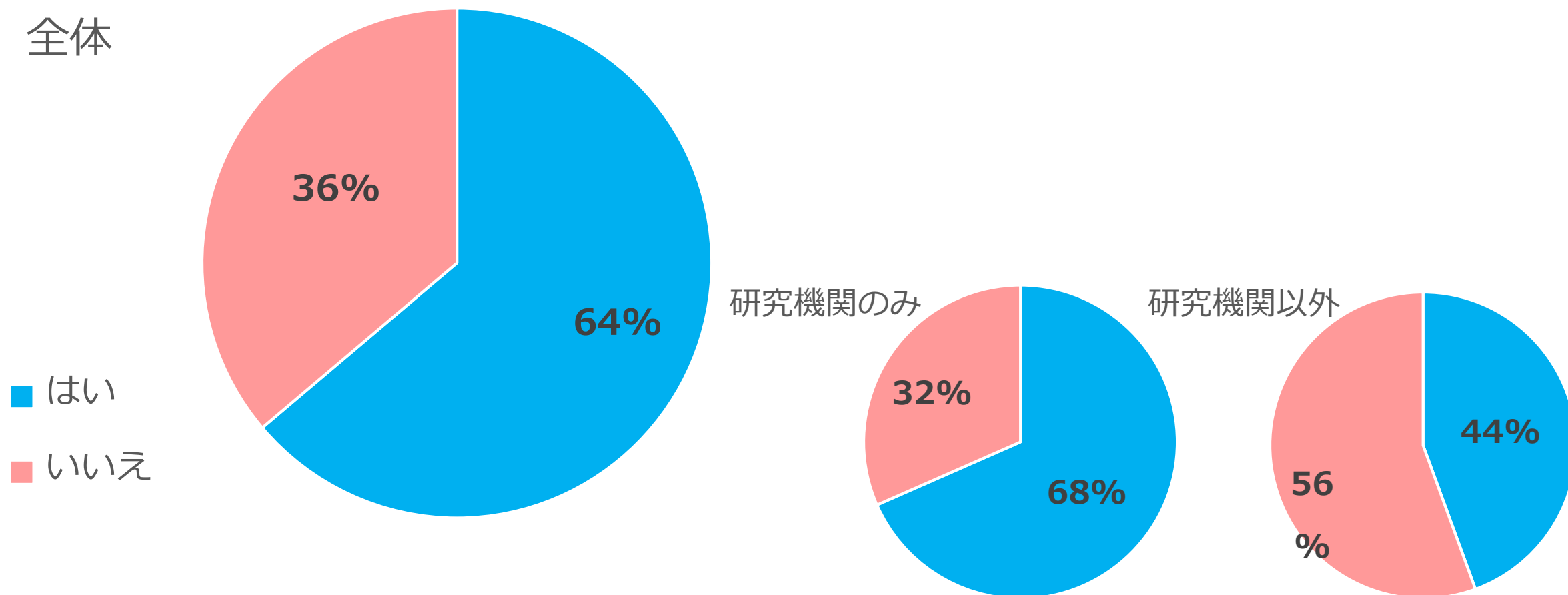


Q. どのような会議を希望するか。

- ・ 鳥インフルエンザシーズンをはずした時期（7～9月）での実開催。
- ・ 出席者同士の意見交換。
- ・ 同業者間での研鑽の場となるような会議。
- ・ 大小様々ある地鶏の産業・飼養規模別に、同程度の規模の機関同士で共通する問題点や課題等意見交換できる場があればよい。

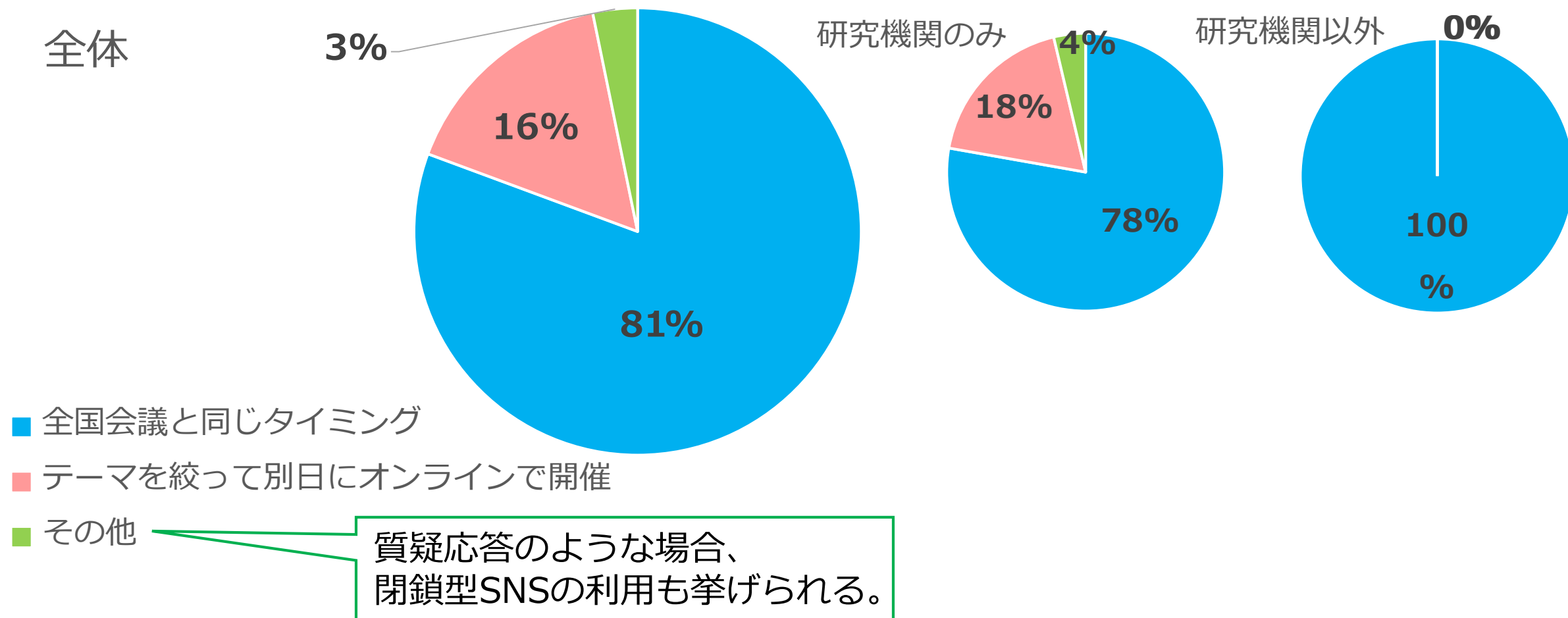
アンケートの結果

Q4. 出席者同士での意見交換を希望しますか。



アンケートの結果

Q4. 出席者同士での意見交換を希望する場合、
どのような方法が希望か。



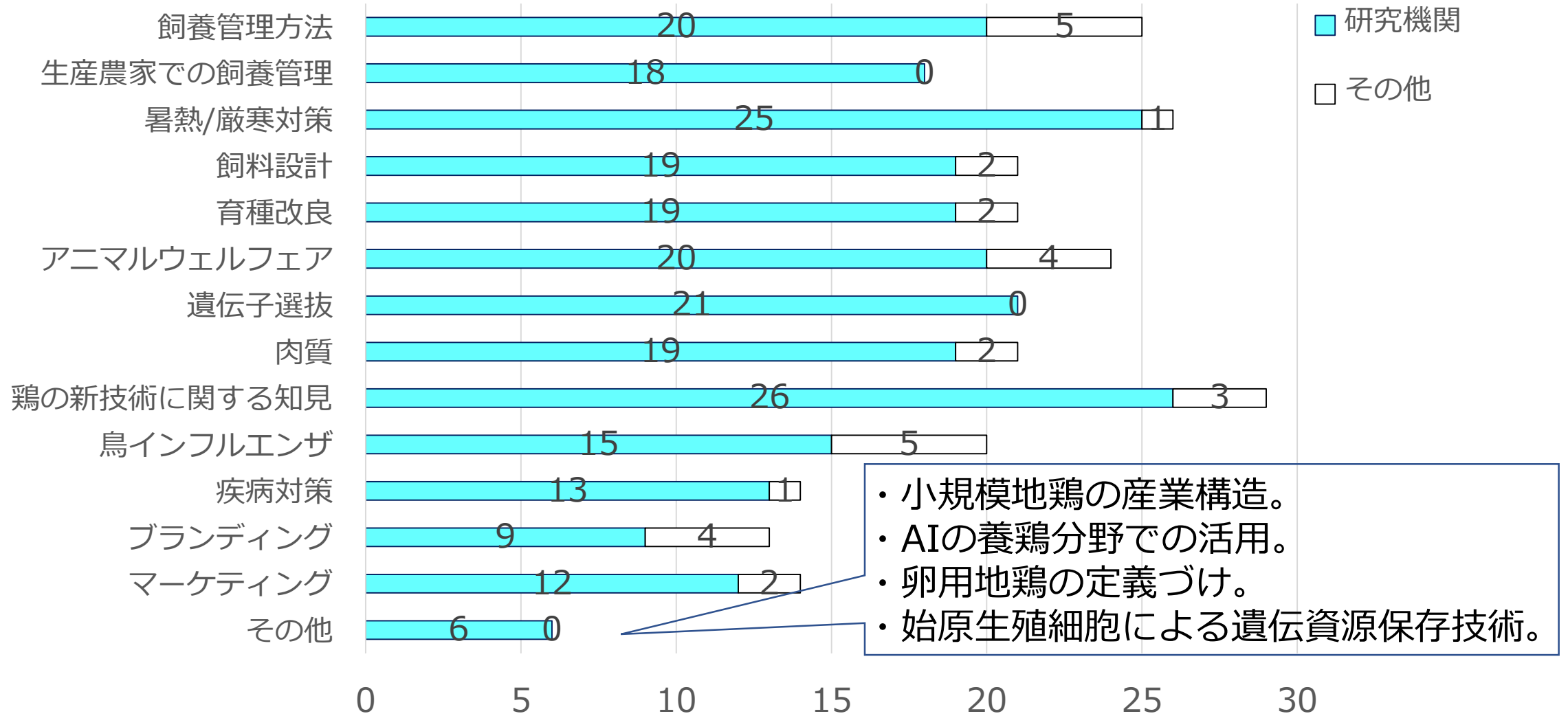
アンケートの結果

Q4. 具体的に意見交換したい内容。

- ・ 各機関との情報交換。
- ・ 飼養管理方法や試験に関する幅広い内容。
- ・ 飼料高騰対策。
- ・ 産業規模の小さい地域の地鶏に関する産業構造やマーケティング戦略等。
- ・ 各都道府県から検討課題を提示して、それについて意見交換する。
- ・ 各自治体が実施している近交係数の上昇を防ぐための取組み。
- ・ 研究成果の実用化に向けた取組みに関する協力の在り方について。

アンケートの結果

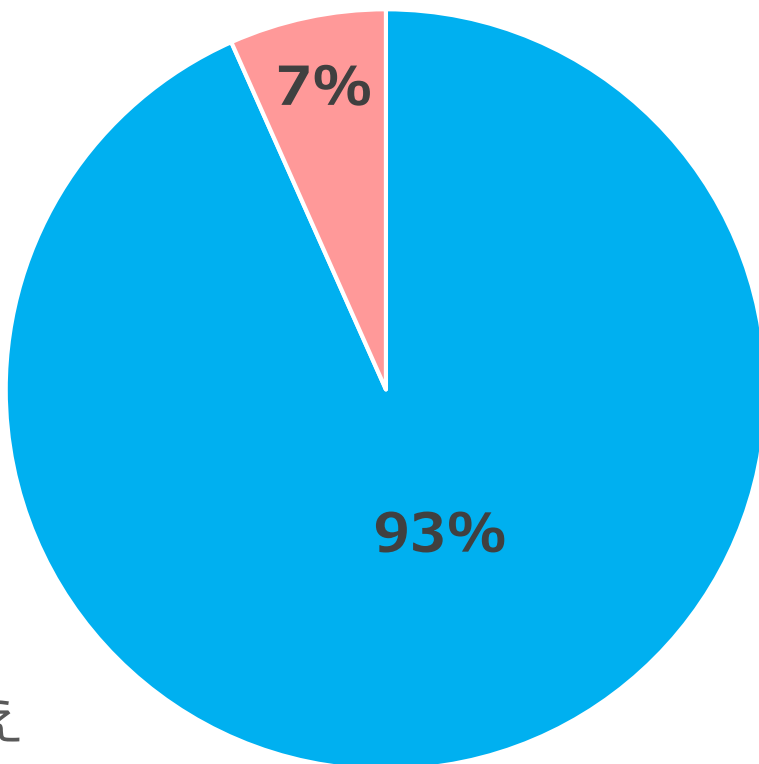
Q5. 気になる議題はどれか。



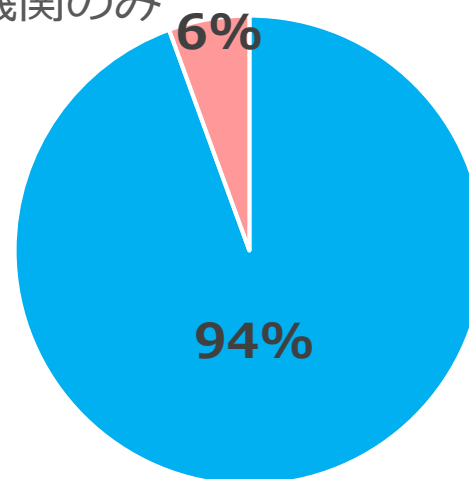
アンケートの結果

Q6. 他機関における飼養方法や生産・販売等の実態、
調査・試験等について興味があるか。

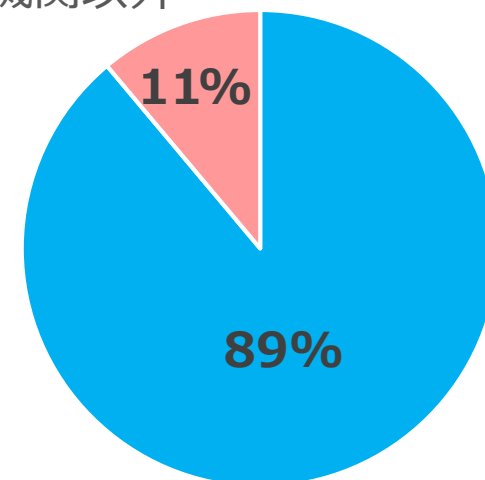
全体



研究機関のみ



研究機関以外

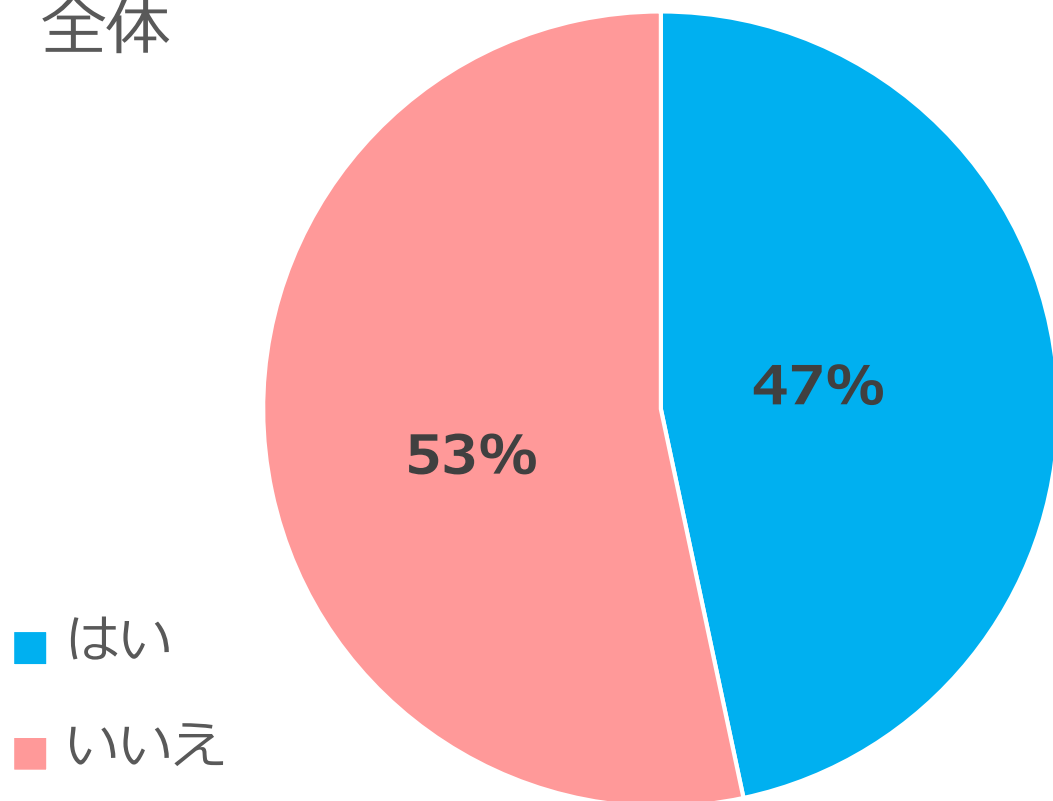


■ はい
■ いいえ

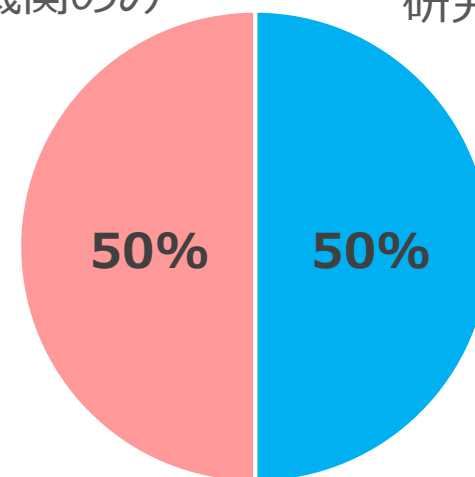
アンケートの結果

Q6. 会議の場で飼養方法や生産・販売等の実態、試験等について発表可能か。

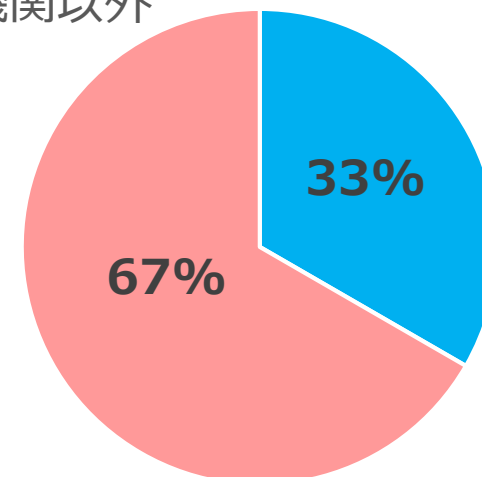
全体



研究機関のみ



研究機関以外



アンケートの結果

Q6. 具体的に発表可能な内容について。

- ・ 地域産飼料を活用した長期飼育試験。
- ・ 種鶏の更新に伴うコマーシャル鶏の能力調査。
- ・ 味覚センサーを用いた肉質分析。
- ・ 最近の国産鶏種（もみじ、さくら等）と外国鶏種との比較。
- ・ 自場で実施している試験研究。
- ・ 種鶏・コマーシャル鶏の飼養管理方法や生産・販売の実態。
- ・ 新たに開発した病原体侵入防止剤について。

アンケートの結果

Q6. 発表が難しい理由。

- ・ 具体的に発表できる内容がない。
- ・ 以前全国会議で試験研究の発表をしている。
- ・ 現在新たなブランド鶏の開発に取り組み中で、未確定要素が多いため。
- ・ 現在試験実施中で、結果を今後まとめる予定。
- ・ 退職予定だが後継がなく、養鶏部門は廃止予定。
- ・ 取り組んでいる試験について、別の場で発表済み。
- ・ 基本的な飼養管理を実施しており、特に目新しい飼育方法や技術に取り組んでいないため。
- ・ 関係機関等への確認が必要となりすぐに返答が難しい。

アンケートの結果

Q7. 全国会議について、意見や提案など。

- ・ 後で照会できるよう、各都道府県の担当者の連絡先を公表してほしい。
- ・ 会議の場で意見交換など出来ればよいが、その場で発言するのは難しいのが実情ではないか。都道府県の担当者同時がもっと気軽に意見交換出来るよう交流会（夜の部）を設けてほしい。
- ・ 欧米のAWをベースに日本人の目線・感覚・心で日本的なAWを考え、構築する機会になれば良い。国産鶏種+日本的AWは国産鶏種の普及拡大の足掛かりになり、大きな流れを作り出す可能性がある。
- ・ 産卵率のデータが正常卵のみか、二黄卵、破損卵を含んでいるのか等、各県でデータのとり方が異なっており参考にならない。
一定の条件付けをした方がいいのでは。

アンケートの結果

Q7. 全国会議について、意見や提案など。

- ・ 利便性の面からオンラインでの参加枠も必要だが、他機関との交流を深める為にも対面での会議開催を希望。
- ・ オンライン開催の場合、中央情勢報告の資料提供をお願いしたい。
- ・ 当面はオンライン会議でもいいと思うが、些細な事を質問したり話すには非効率なため、SNS等の活用が必要ではないか。
- ・ 生産現場で問題となっているツツキ等の具体的な対策事例、各機関の地鶏の肉質・食味の特徴や、販売戦略、取り組み事例等の情報提供。
- ・ 全国の養鶏関係者がざくばらんに意見交換できる極めて有意義な機会。対面での開催を期待する。

アンケートの結果

Q7. 全国会議について、意見や提案など。

- ・ 本会議のように多様な機関が一同に集まって情報交換するような場は他畜種ではない。
- ・ 養鶏業界が抱えている課題について、テーマを絞って多種多様な参加者同士で議論するような場があってもよいのでは。
- ・ 大学や企業の研究者の出席が少ないため、日本家禽学会等に研究者の参加を呼び掛けたり、講師依頼をしてはどうか。

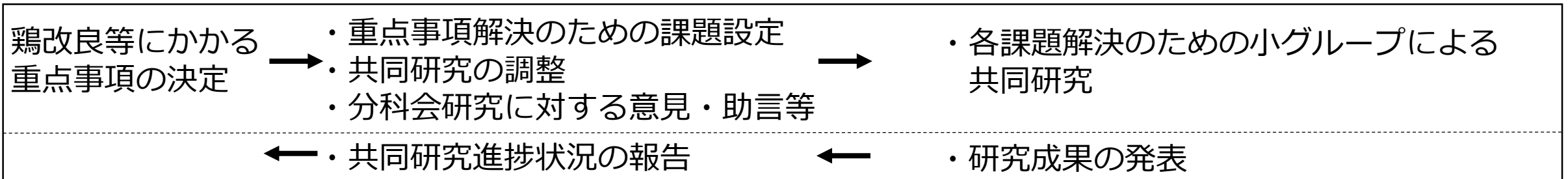
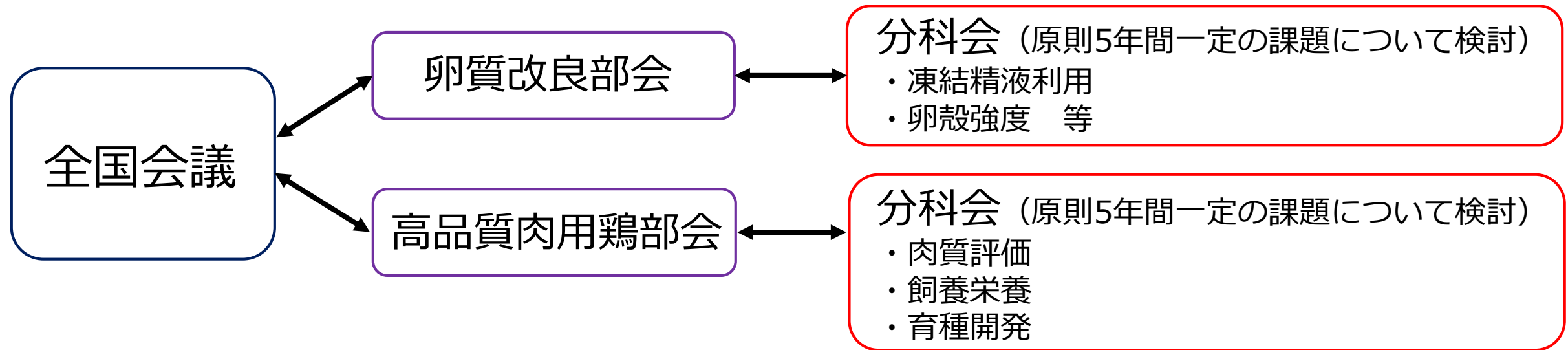
高品質肉用鶏部会と肉用鶏分科会について

2001（H13）年の鶏改良増殖目標の見直しにより、国主導・経済形質重視の改良から、各県の自主的・高品質な鶏の改良へとシフト。

- ①鶏改良推進中央協議会で改良の基本方向を検討。
- ②改良のための具体的な課題を卵用・肉用鶏部会で設定。
- ③その個別課題の解決のため分科会を設置し、各分科会参加県が分担して共同研究等を行う。

概要

高品質肉用鶏部会と肉用鶏分科会について（設立当初イメージ）



開催主体/岡崎・兵庫牧場

岡崎・兵庫牧場

幹事都道府県

開催頻度/年 1 回

年 1 回

基本年 1 回以上（幹事による変更あり）

概要

高品質肉用鶏部会と肉用鶏分科会について

年次	経	緯
2001 (H13)	鶏改良推進中央協議会のもと、2つの部会を設立。 ○卵質改良部会（担当：岡崎牧場） ○高品質肉用鶏部会（担当：兵庫牧場） ・肉質評価分科会 ・飼養栄養分科会 ・育種開発分科会	個別課題解決のための共同研究の場。 都道府県主体の運営方針とする。 各分科会の中で課題設定をして共同研究を行うことで合意。
2014 (H26)	卵質改良部会・高品質肉用鶏部会の廃止。	卵用・肉用鶏を合わせた「地鶏・国産鶏種普及促進ネットワーク会議」発足。 肉用鶏の3分科会を統合してはとの提案。
2015 (H27)	分科会の方向性についてアンケート実施。	過半数が統合に賛成したものの、新体制の移行には時間が必要、一部に反対・慎重意見。
2016 (H28)	現行のまま肉用鶏分科会を継続。	2017（H29）肉質評価分科会 休会。

概要

高品質肉用鶏部会と肉用鶏分科会について

H27に実施したアンケート後の今後の分科会の方向性について

- ・新体制への移行が可能となるまでの間は現行の分科会体制を継続。
- ・各分科会内で新体制へ移行する場合の運営方法等について検討。
- ・各分科会での検討結果をふまえ、兵庫牧場で必要な調整を行い、今後の進め方を整理する。

その後各分科会内で意見調整したところ・・・

- ・統合した分科会は家畜改良センターが運営すべき。
- ・大所帯化した分科会のテーマ設定はどうするのか、突っ込んだ意見交換が出来ないのでは。
- ・統合分科会とは別に現行分科会の継続が必要。その場合も全国会議等と関連付けしてもらわないと旅費が出ない。

概要

高品質肉用鶏部会と肉用鶏分科会について

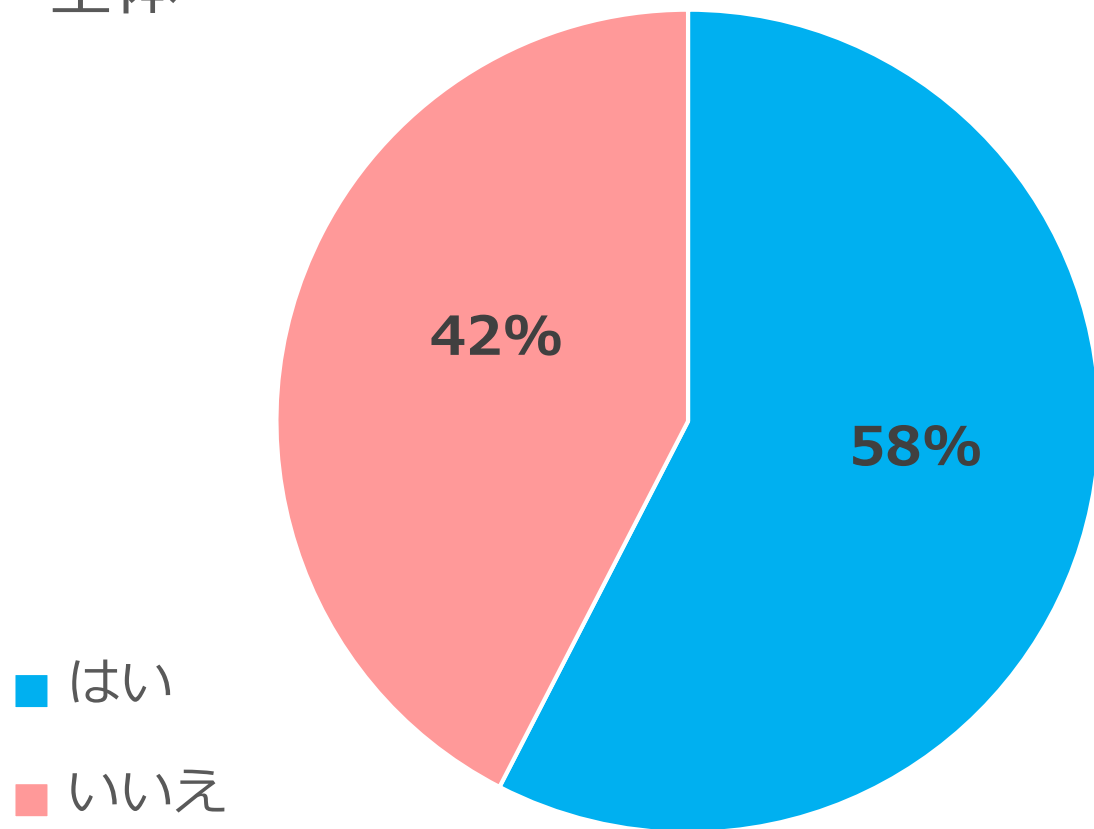
現在の運営実態

- ・ 参加県の自主運営とする。
- ・ 参加県で1年ごとに幹事を持ち回り。
- ・ 兵庫牧場はオブザーバーとして参加。
- ・ 1年に1回会議を開催し、鶏改良推進中央協議会の場で情報提供。
- ・ 講師旅費等を兵庫牧場で負担。
- ・ 各分科会に参加希望の場合、幹事県に連絡する。

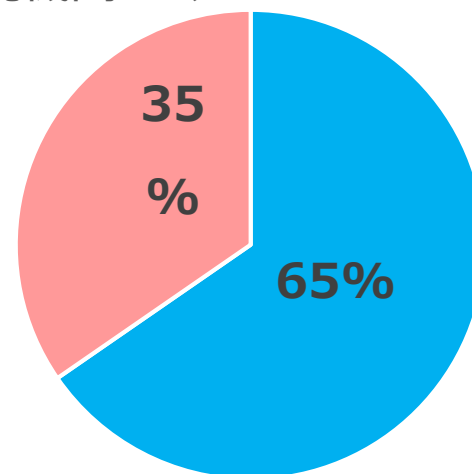
アンケートの結果（分科会に入っていない機関対象）

Q1. 肉用鶏分科会があることを知っているか。

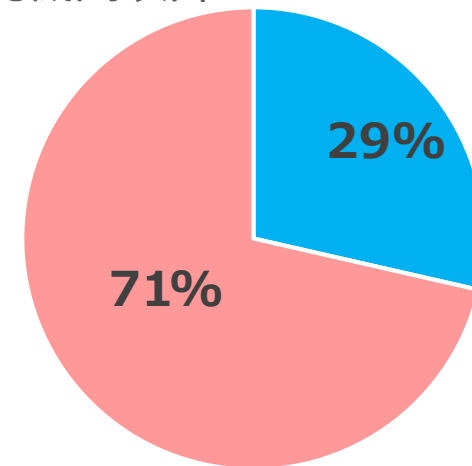
全体



研究機関のみ



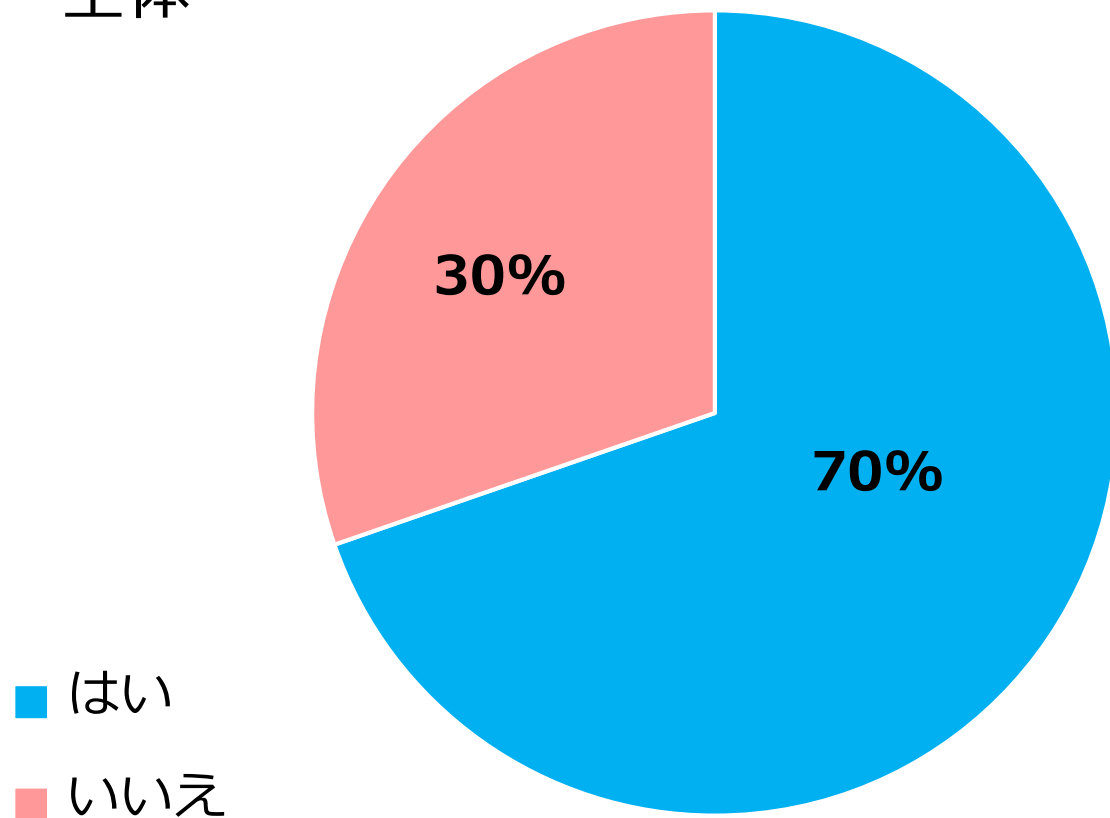
研究機関以外



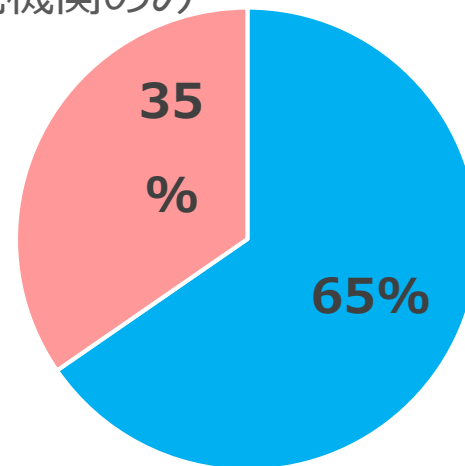
アンケートの結果（分科会に入っていない機関対象）

Q2. 肉用鶏分科会に興味があるか。

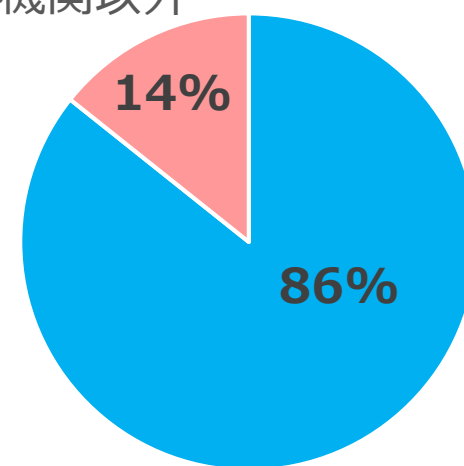
全体



研究機関のみ

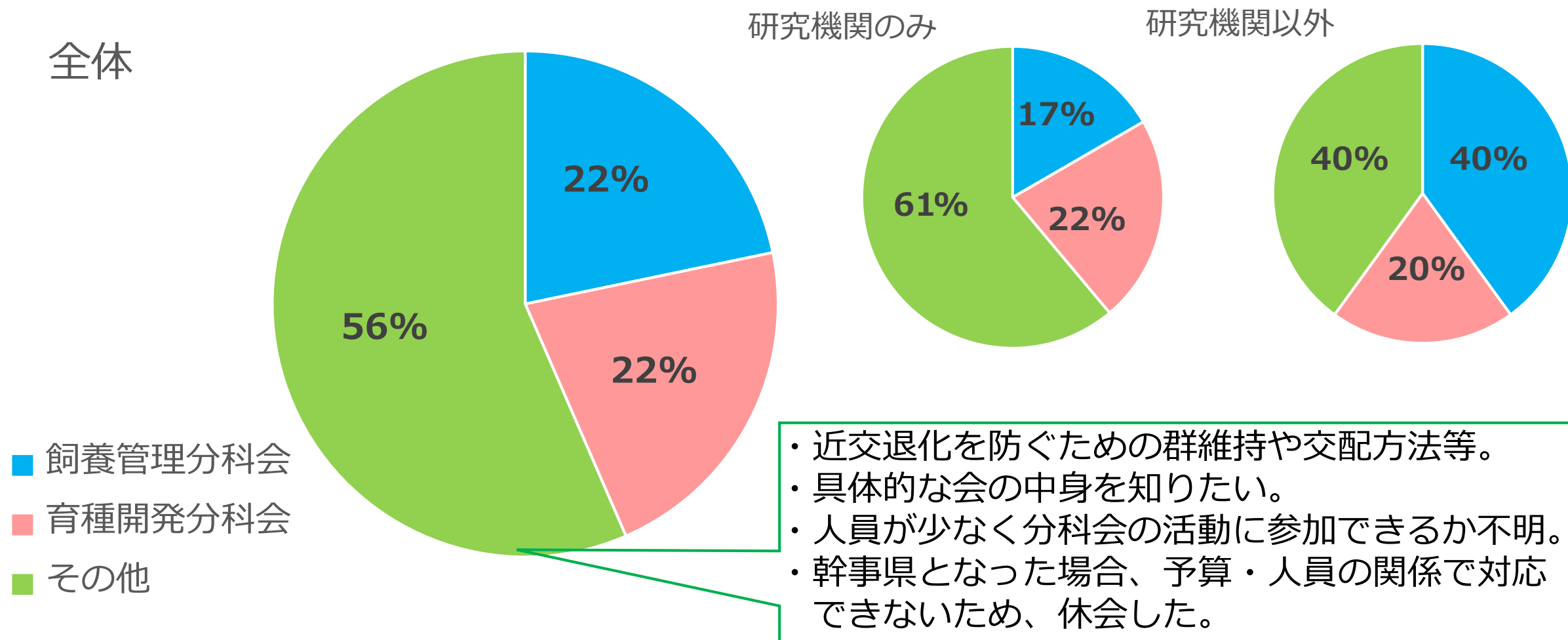


研究機関以外



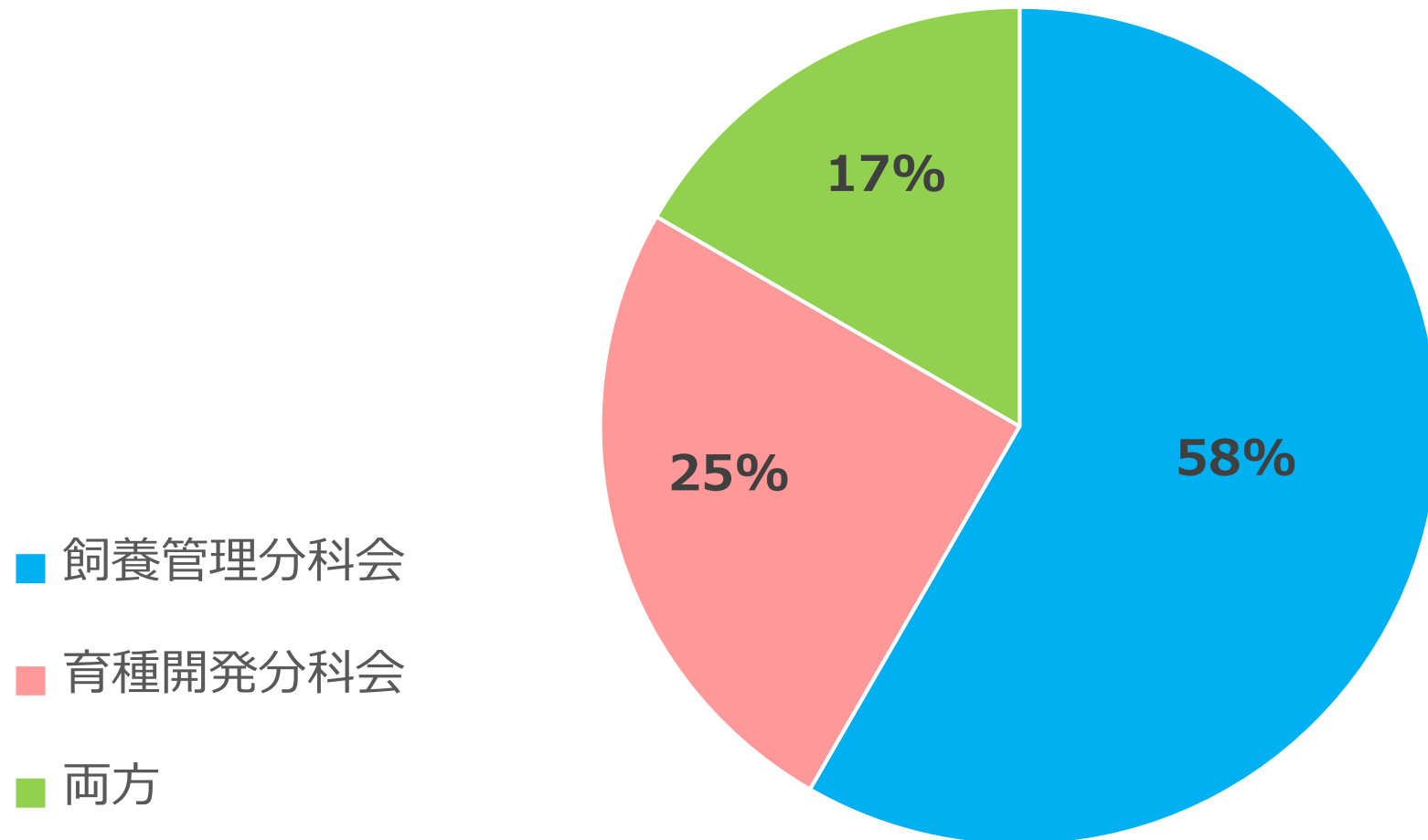
アンケートの結果（分科会に入っていない機関対象）

Q2. 肉用鶏分科会への参加を希望するか。



アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q1. どちらの分科会に所属しているか。



アンケートの結果（分科会所属機関対象）

分科会所属機関一覧

飼養管理分科会

青森県、秋田県、山梨県、
三重県、京都府、**高知県**、
長崎県、熊本県

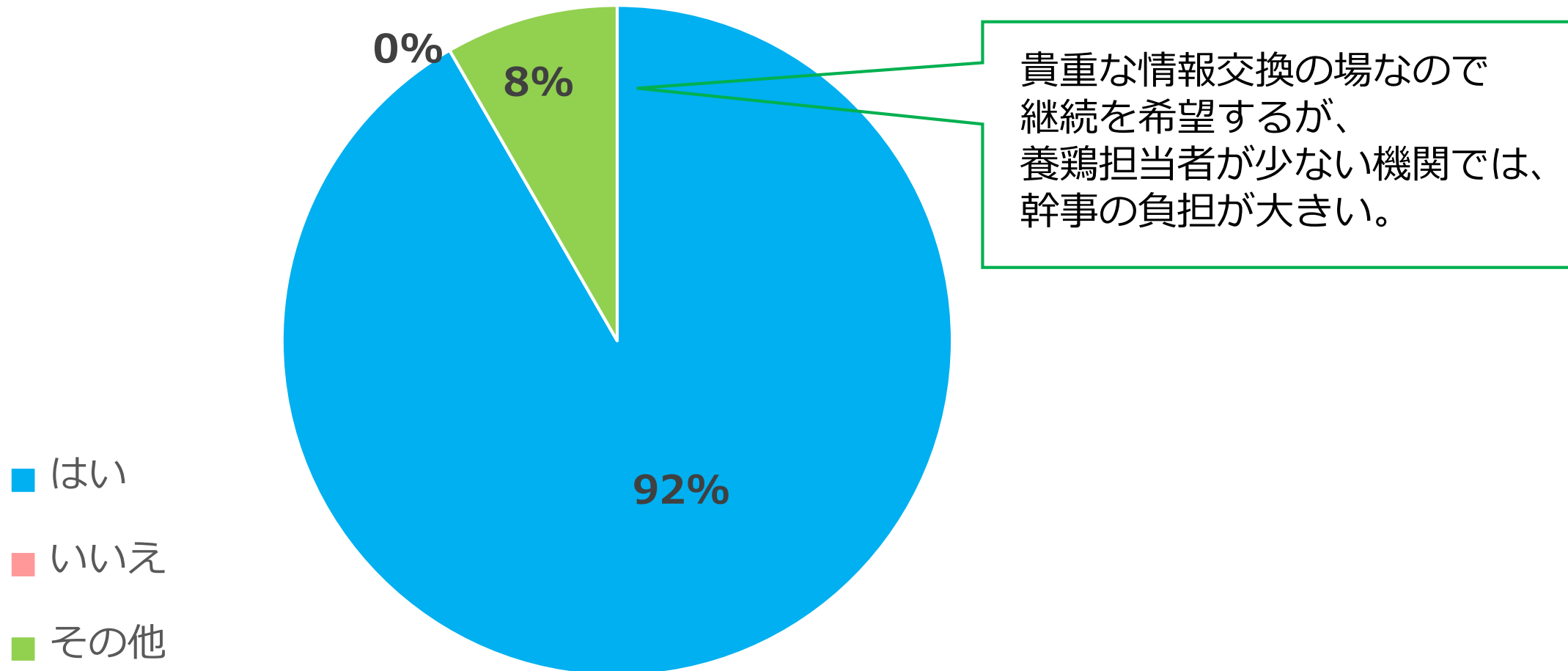
育種開発分科会

秋田県、福岡県、**熊本県**、
宮崎県

※赤字はR5年度幹事県

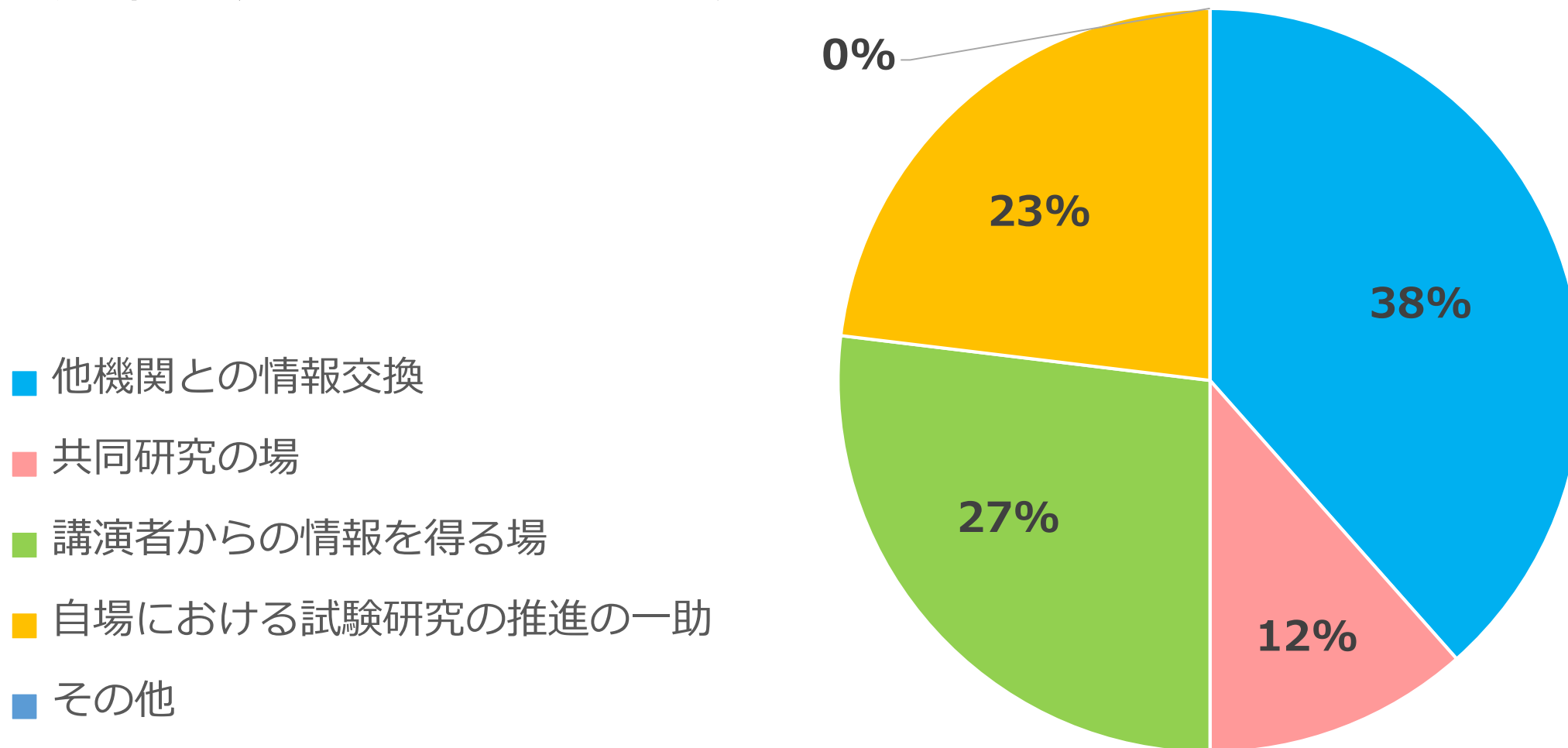
アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q2. 分科会の運営を今後も継続したいか。



アンケートの結果（分科会所属機関対象）

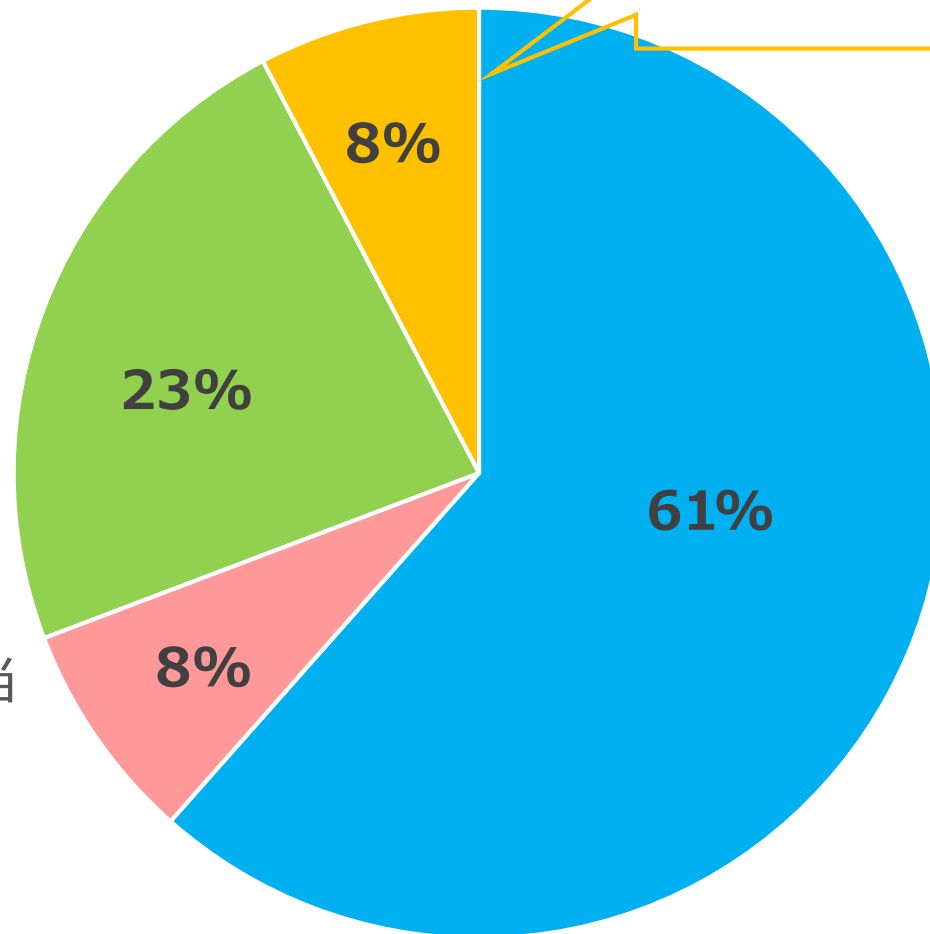
Q3. 分科会をどのように活用しているか。



アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q4. 分科会の報告について。

- 全国会議で報告するのが適当
- 全国会議とは別で報告するのが適当
- 報告は必要ない
- その他



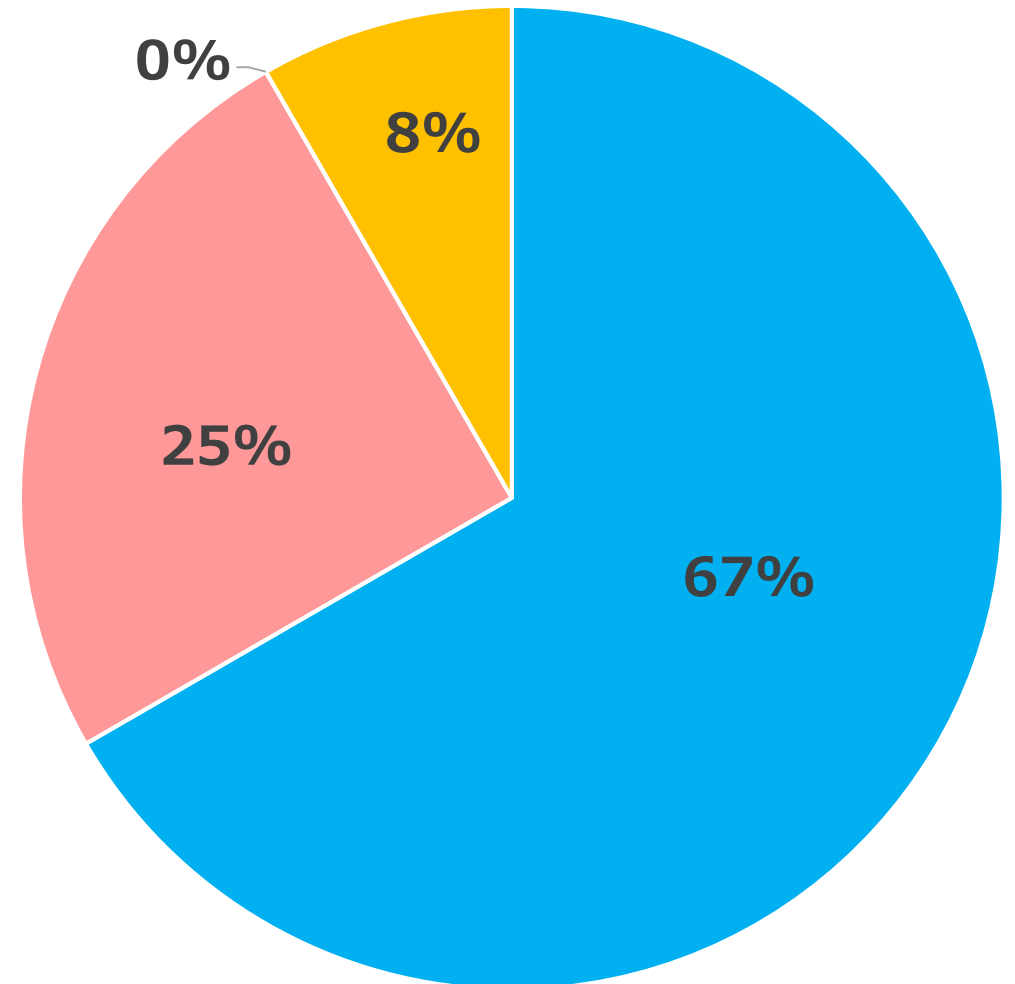
技術マニュアル等を作成した場合に報告してはどうか。

アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q5. 分科会の在り方について。

- 現在のままでよい
- 2分科会を統合し、新たなものとしてもよい
- 分科会は特に必要ない
- その他（具体的に記載してください）

地鶏・銘柄鶏の肉質がより一層重要視されてきていると感じるが、都道府県同士の交流が減り、養鶏担当者も変わる中、鶏肉の肉質分析に関する知識・手法の格差が生じていると考える。肉質評価分科会の復活等検討してはどうか。



アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q6. 肉用鶏分科会の運営における課題点。

- ・ 担当者が少ない都道府県では幹事の負担が大きい。
- ・ 各機関の養鶏担当者は少人数である場合が多く、開催時の負担が大きい。2分科会を統合、開催都道府県をブロック化するなど、負担が軽減できれば良い。
- ・ 飼養管理分科会はテーマがやや漠然としている。分科会メンバーで方向性を協議するのは必須だが、家畜改良センター及び農水省（技術会議）から、飼養管理分科会で取り組んでほしいテーマがあればコメント頂きたい。

アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q7. 肉用鶏分科会について、意見や提案など。

- ・家畜改良センターが分科会をどのように位置づけているのか教えてほしい。不参加県は分科会の存在が分からない。全国会議で家畜改良センターから各都道府県担当者に分科会の存在意義等説明してほしい。
- ・各分科会の経緯や全国会議との関連を改めて教えてほしい。
- ・去年から鶏担当となり、各分科会の内容や参加県について分からない部分があるため、分科会の紹介の時間を作ってもらいたい。

アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q7. 肉用鶏分科会について、意見や提案など。

- ・全国会議で活動報告をしてもらい、意見交換等できるとよい。
- ・未加入の機関も、一度会議に参加できるようにしてほしい。
- ・小規模地鶏産地の関係機関が集まる分科会であれば、取り組んでいる試験等について相互に発表等可能。
- ・分科会自体は有意義な場で今後も継続していきたい。
- ・2分科会とともに各都道府県の養鶏研究員同士の交流や、顧問である大学や農研機構とのパイプを繋ぎ、実際に共同研究にも発展していることから、養鶏業界を支える貴重な場である。

アンケートの結果（分科会所属機関対象）

Q7. 肉用鶏分科会について、意見や提案など。

- ・各分科会から農水省（技術会議）に、育種及び飼養管理の面で現在抱えている養鶏業界の課題解決に繋がるような研究内容について全国会議等で提案できるような場を設けてはどうか。そこから現場ニーズ対応型研究などで予算化できれば理想。